

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合		
事業所名	企業組合 巣南グループホーム企業組合		
所在地	岐阜県瑞穂市古橋1357-1		
自己評価作成日	平成21年12月17日	評価結果市町村受理日	平成22年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700450&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で地域の方々とともにゆったり生活しています。代表者夫婦も地域住民で長く地域に住んでいるためつきあひも深く、職員も地元のものが多いため地域にしっかりとけこんでいます。また、少人数で個々の要望に対応できます。職員も長く勤務しているものが多く、家族のようにいたわり合うことができます。ホームの前の畑で四季を感じ、採れた新鮮な野菜が毎日の食卓を彩ります。住み慣れたいつもの地域を毎日散歩し馴染みの人と立ち話をしたり、ご家族の方々や地域の方々がお茶し話をしたり、ゆったり流れる時がここにあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は代々からの地域住民であり、地域との連携が深く、代表者宅と棟続きの民家を改修したホームである。理念である「ただいま、お帰りのさい」そんな関係がピッタリのホームである。広い屋敷の庭には季節実なる木々が多くあり、柿、ミカンなど収穫時が喜びでもある。四季折々の花が植え付けられ、畑もあるため利用者の食材である野菜はすべて庭で収穫できる。作る楽しみ、食べる楽しみを味わいながらゆったりと過ごしている。開設当初から地域の職員が多く、散歩などにでかけると利用者と共に地域の人との楽しい会話に花が咲き、帰る時間を忘れるほどである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームや地域の特徴にあった独自の理念をつくり日々の介護姿勢を再確認している。	理念である「ただいま、お帰りなさい」と声をかけ、暖かい我が家に帰ったような、静かでゆったりとした時が流れ、住み慣れた地域で人のぬくもりを感じながら生活している。職員は理念を共有し、利用者はとても穏やかでのんびり過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会に参加したり、保育園や小学校の運動会を見学したり、交流している。地域の保育園児も年6回訪問してくれる。また演芸レクリエーション、お相撲さん来訪時には地域の方を招き一緒に楽しんでいる。	代表が地元住民であり、ホームの利用者は地域の一員であることが当たり前になっている。地域の行事にはすべて案内があり、保育所や学校の行事にも誘われ、楽しんで参加している。保育所の園児が訪問してくれたりもする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し毎年介護教室を開催している。また、日々の散歩や生活の中で地域の方と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々が多く参加しいろいろな意見やお互いに学習したりできている。	代表の母屋にある広い間取りの部屋で開催され、近所の人も参加し、参加者も多い。話し合う内容により地域代表のメンバーが入れ替わり、地域で取り組めることは協力するなど前向きな意見を多くもらい、利用者のサービスにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加以外でも多くの機会でご協力やアドバイスををいただいている。また、介護相談員も毎月受け入れご利用者と交流している。	制度改正の説明を受けたり、また、介護相談員の受け入れなどを行い、市との連携はできている。感染症やインフルエンザなどでは、様々な資料や情報の提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ日々のケアの振り返りやカンファレンスで自覚しない拘束が行われていないか等検討している。	身体拘束排除宣言を職員は自覚しており、利用者の行動は担当が把握し、玄関の施錠を含めて拘束しないケアが行われている。広い庭があり、自由に庭の散歩を楽しんでいる。	身体拘束や虐待防止など、管理者による口頭での職員教育は実施されているが、さらには、口頭だけでなく資料等を基にした専門的な研修の実施にも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するようにし、勉強会やカンファレンス時に報告し理解を深めるとともにホーム内で利用者に行われることがないように職員同士注意している。利用者の様子や話をよく観察しその傾向がないか常に注意している。		

岐阜県 巣南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に必要があれば紹介したり、職員の中でも理解が深めることができるよう説明している。研修会等参加もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に来院して頂き充分時間をかけ説明、話し合い、医療に関する契約や個人情報についての契約も文書で同意を得るようしている。できるだけ分かり易く説明し質問しやすい雰囲気作り心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族と連絡を取り合い来院時や手紙等で問いかけ話しやすい雰囲気作りをしている。出された意見、要望は迅速にカンファレンス時話し合い運営に反映している。必要であれば運営推進会議でも話し合いできようすすめている。	ホーム便りを発行し、利用者の言葉を添え、職員が日々の暮らし状況などを記入し、家族に送っている。家族から返事をもらったり、意見や要望も出され、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを月1回程度行い、意見が出せるようしている。また、常に職員の意見を把握し反映できるようコミュニケーションを図っている。	利用者の担当職員があらかじめ決められており、職員は担当する利用者の状況を把握している。カンファレンスを月1回行い、全体で共有している。職員から思いや運営に対する提言を気楽に発言できる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、管理者は常に職員と接し状況把握に努めている。十分コミュニケーションをとり必要に応じ職場環境整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で行われる研修に積極的に参加し研修内容はカンファレンス時に全体に報告し研修報告書作成している。職員を把握しその職員にあった研修、必要な研修が受けられるようしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に所属し協会会議や研修会に参加し意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階にご本人と面談し、要望や気持ちを把握できる機会を設けるようしている。また必要に応じ利用前の住居を訪れ、生活状況を把握する。またお試し期間を設け不安や希望を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず、事前にホームを見学して頂き、話し合いをもち、ご家族の気持ちや本人の家庭での様子をゆっくり聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の想いを大切に、家族の希望、現在の状況をふまえ、今一番必要なサービスを検討し優先し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に作業したり食事したり生活する中で同じ感情の共有ができるようしている。利用者が得意な面では教えて頂き一緒に行うようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りやケアプラン作成時に利用者の様子や今ががんばっていることを個々に家族に伝え、協力をお願いし一緒に支えになっていけるようしている。どんなことができるようになって何ができなくなったのか、折にふれ家族の方に話すよう心掛けている。またお正月やお盆の帰省や外出も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みのものを自由に持ってきていただいている。また、馴染みの方が自由にきていただき食事等も一緒にとることができるよう配慮している。近隣の利用者が散歩時馴染みの人や家にいけるよう支援している。	地域で以前生活していた人もあり、また、親戚があるなど個々の関係が保たれるよう支援している。地元の利用者は気軽に馴染みの人が訪問することも多く、食事を共にしてもらおうなどの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や作業、リクリエーション時に職員も一緒に会話をし、利用者同士の関わりがうまくいくよう配慮している。孤立することがないように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方々や利用者が相談できる雰囲気作りに努めている。転出や入院時は情報を提供し同様なサービスが受けることができるよう連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子、言葉や表情をよく観察し把握する。困難時は職員全体で検討し本人の気持ちに合うよう努めている。	利用者一人ひとりに常に目を向け、孤独を感じることはないケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族の話の中で生活状況を常に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活スタイル、希望にできる限り対応し利用者全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	設定期間ごとや必要時に毎回アセスメント、モニタリングし本人の思いや希望の変化を把握し担当者を中心に全体でケースカンファレンスし意見交換し計画をたてている。	利用者毎の担当職員が家族を含め利用者の希望を聞いている。家族も気軽に要望などを伝え、モニタリング等に反映し、全体でケアカンファレンスを行い、意見交換をしながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護ファイルを利用しケアの実践や気づきを記録し職員全体が情報を共有できるようしている。それをもとに介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望や状況に応じ必要なサービスの支援を行っている。		

岐阜県 巣南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域住民との意見交換を行っている。年に1回近隣住民と防災訓練、救急法を行い緊急時に備えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院内で希望を聞きかかりつけ医を決めている。入居しても引き続き同医療が受けられるよう配慮している。入居時に医療に関する希望を聞き文書で同意をもらっている。	入居時に利用者へホーム協力医の説明をしている。ホーム協力医の健診は、概ね1ヶ月に1回、通院介助を行っている。個人のかかりつけ医へは、原則家族に依頼しているが、無理な場合は職員が同行している。	協力医以外の同行も行われているが、ホーム職員による同行対応の取り決めに明確にし、家族に周知されることが望ましい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており利用者の健康管理や状況変化に応じた支援ができるようしている。常に連絡を取り相談できるようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の支援に関する情報を提供し、できる限り職員が見舞い、医師からの説明も家族ともに聞くようにし状態の把握をし速やかな退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療に関する契約書を作成し利用者の思いや家族の希望を把握している。また、ホーム内でのケアについても同時に説明し理解していただいている。	入居時に重度化や急変時、看取りについての説明を行い、医療に関する独自の契約書を作成している。ホーム内でできるケアについての説明も同時に行い、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し事故発生に対応できるようしている。また、定期的に防災訓練、救急法を行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、消火器の使い方、避難訓練、救急法講習を行っている。また、地域の方々にも協力を呼びかけ一緒に訓練を行っている。	地域の協力で避難訓練、救急救命の講習を実施した。避難訓練、避難場所、経路等を全職員で確認し、連絡体制も整っている。夜間における非常時の対応は、代表の自宅が隣であり、連絡体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報についての取扱い徹底するとともに、カンファレンス時に職員の意識向上を図っている。	職員が地元出身であることから、言葉かけが、時には親しさからプライバシーを損ねる言葉かけになる場合もあるため、人格を尊重し、敬う気持ちを常に持つことをミーティング等で互いに話し合っている。	利用者、職員が地域住民であり、馴染みの関係は良いが、個人情報に対する配慮が必要な場合もあるため、日常から職員間での意識統一を図りたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の提供や利用者が希望を言い易い雰囲気を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩時、利用者と十分コミュニケーションを取りながら、それぞれの利用者の状態や思いに配慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装は自分で決定している。自己決定が困難な利用者には職員と一緒に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、片付けを利用者と職員が行い楽しみになるようにしている。	利用者には、それぞれの残存能力を活かせるよう食事の手伝いを依頼している。食卓の目の前に畑があり、自分たちも手伝って野菜を作る喜びから、食事時の話題が多い。職員も同じ物を食べ、料理方法を利用者から学ぶ場合も多々ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容、個々の食事量、水分量を記録し職員が情報を共有できるようにしている。栄養バランスが一目でわかるように肉・魚・豆類は赤、果物・野菜は緑、卵・乳製品は青とメニュー表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて、見守り、声かけ、援助を行っている。		

岐阜県 巣南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者をよく観察し時間や排尿パターンを把握しトイレ誘導しトイレでの排泄を促している。	トイレでの排泄の心地良さを利用者が感じることを促している職員の努力によって、入居当時よりトイレでの排泄が可能になった利用者が多い。利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂るようにするとともに、散歩や体操等で適度に身体を動かすことができるよう支援している。自力排便困難な方には利用者の状態を把握し利用者の負担が少ない方法で援助できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた時間での入浴ができるよう配慮している。	管理者の思いから、業務の流れでなく利用者の希望を最優先に聞き、昼でも夜でも対応している。週3回の入浴で、広い庭を見ながら、広々とした浴槽で、ゆったり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えることができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬シートを作成し服薬確認し、処方箋をファイルに整理し服薬内容が速やかに把握できるようしてりる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮できるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を目で見て肌で感じてもらうためにも、散歩や買い物、花見等で出かけている。	利用者の中には親戚が地域にあったり、思い出の場所があったり、それぞれの希望に添った外出支援を行っている。入居時に、盆や正月はできれば家族と共に過ごすことを勧めており、利用者の半分以上は家庭で家族と過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時に可能な方は少額のお金を所持し自分で払ってもらうことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、日常的に電話ができたり、手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯のおいしい匂い、窓から見える畑の野菜、果物、花等季節を常に感じることができるようになっている。	共用の空間には、窓越しに観賞できる四季の花・野菜・果物、また、台所で準備する食材の匂いなどがあり、家庭そのものでぬくもりを感じる。利用者は居室より居間に全員が集まり、職員との会話が長く、優しい言葉とゆとりの時間は少人数の良さでもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者全員が集う居間とは別に畳の居間や縁側等、人の気配を感じながら一人の時間を楽しむことができるようなスペースが確保してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた馴染みの物を持ってきていただき、居心地のよい空間作りに配慮している。	馴染みの物が持ち込まれ、利用者の好みで洋間、和室の居室になっている。窓が全開で使用されるが、職員が目配りもあり、危険を感じることはない。日当たりが良く、風通しも良い。家族と共に、好みに部屋が飾られ、居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽やトイレ、廊下等に手摺を付け、安全確保と自立への配慮している。職員全員で話し合い少しでも残存する能力を引き出すことができるよう工夫している。		